

1 本校の主な課題と留意点

(1) 国語Aについて

本校の平均は、県の平均を「下回る」結果でした。課題として、一つ目に漢字やローマ字を読んだり書いたりすることです。基本的なこととして、漢字を正しく書くこと、併せて習得した漢字を読んだり、書いたりする機会を増やす必要があります。特に文章の中で適切に使えるようにしていくことです。二つ目にローマ字を正しく書くこと、読むことです。普段の生活では、なかなか使う機会がありませんが、学校の指導と併せて日常的にローマ字に親しむ機会も大切です。

(2) 国語Bについて

本校の平均は、県の県平均と「おおむね同じ」結果でした。課題として、「話すこと・聞くこと」が挙げられます。相手の話を目的意識を持って聞くことを大切にしたい指導をしていきます。自ら積極的に「聞く」営みとは、必要に応じて聞き返したり、相手の話を確認したり、補足説明を加えたりすることです。聞き手と話し手が、お互いに補いながら情報の正しい伝達ができることが大切だと考えられます。

(3) 算数Aについて

本校の平均は、県の平均を「下回る」結果でした。課題として、一つ目に小数の除法の計算が正しくできることです。二つ目に割合の考え方です。1を超える割合を百分率で表す場面で、基準量と比較量の関係について理解を図ることです。数直線などを使って、書き表す中で何が基準量にあたるのかが理解できることです。

(4) 算数Bについて

本校の平均は、県の県平均と「おおむね同じ」結果でした。課題として、一つ目に記述式で回答する時に、式や数値の意味を理解したり、説明したりすることに課題があります。二つ目に図形の用語を使って、式の意味を的確に説明していくことです。

2 学力向上に関わる実践的な取組について

(1) 全体

校内研究で取り組んでいる「わかる授業づくり」を「ユニバーサルデザイン」の視点から今後も実践し、児童の実態にあった教材や学習環境づくりに努め、それらを生かした日々の授業を行います。

(2) 国語の指導

- ・国語の授業では、その時間に「培うべき力」をできるだけ焦点化して指導にあたります。
- ・読書の時間の充実をはかり、物語だけでなく、図鑑などにも興味を持たせて、例えば、図と説明、グラフと結論などの関連にも慣れ親しませたいと思います。
- ・教育課程上、指導時間が短いローマ字の習得などに短期間の家庭学習でも取り組めるようにします。
- ・新聞や国語辞典の活用について充実を図ります。

(3) 算数の指導

- ・線分図、数直線図、アレイ図などの図を有効な思考ツールとして児童が使用できるよう指導していきます。
- ・チームティーチングの授業では、タブレット型PCを使って「大きく写し示すこと」でより「わかりやすく」提示します。
- ・「つなげる算数」の「みんなで作る問題解決の授業」に示されるような学習問題に積極的にチャレンジさせ、学力の伸長を図ります。

(4) 学級集団の育成

- ・「誤答こそ宝物」の意識を児童が理解できるようにし、誤答に至る思考の過程を説明できる力を育てるように努めます。

(5) 家庭学習の推進・算数ワークの活用

家庭学習についての手引きを家庭に配付し、手引きに沿った取り組みを昨年度より行っていますが、今後も計画的に家庭学習の充実のため家庭と連携して指導していきます。また、甲府市教育委員会発行の算数家庭学習ワーク「つなげる算数」を3年生、5年生が活用し、特に活用型の学力向上を図っていきます。

また、家庭の協力をいただき取り組んでいまず児童の学習ノートの統一と、ノート指導の充実を引き続き図っていきます。

(6) 個別の学習支援の推進

特別支援教育コーディネーターが中核となって、通級指導教室と通常の学級との連携、市きめ細か指導加配教員による意図的・弾力的な個別の学習支援に取り組んでいきます。

